

経済思想史

壽里竜研究会

難波ちづる研究会

壽里竜研究会

—社会思想史—

1. 研究分野

社会思想史

2. 学生への要望

身近に存在する問題点を取り上げ、議論を展開することを中心にゼミを進行するので、積極的に議論に参加する主体性を持っていること

3. 選考について

a. 募集人数： 12 人

b. 選考内容

筆記試験、面接

成績表の提出は無し

c. 他学部入ゼミ、PEARL 生受け入れの可否
可

但し、日本語でゼミは行う

d. 選考基準

筆記試験：与えられた課題図書の内容を十分に理解できているか

* 足切りあり

面接：自分の意見を持ち、論理的に話すことができるか

4. ゼミ構成員

4 年生：男子 10 人、女子 2 人

(他学部 0 人、留学中 0 人)

3 年生：男子 5 人、女子 2 人

(他学部 0 人、留学中 0 人)

5. 活動紹介

①ゼミ (火曜 4、5 限)

②サブゼミ

なし

③パートゼミ

なし

④インゼミ

なし

⑤課外活動

なし

⑥三田祭

なし

⑦夏休み

レポート提出

⑧合宿

2 泊 3 日 (2019)

⑨ゼミ必修授業

なし

⑩経費

合宿費

6. ゼミ試験対策で使用した参考書

正義とは何か 現代政治哲学の 6 つの視点
神島裕子著 中公新書

7. 先生が担当している講義

経済思想の歴史 I (春・月 5 限・日吉)

歴史的経済分析の視点 (春・火 1 限・日吉)

社会思想史 (秋集中・月 3、4 限・三田)

8. ゼミ HP・SNS

Twitter : @keiosusato

HP : <http://susato.wp.xdomain.jp/>

9. 連絡先

入ゼミ担当

岡本 陵雅 (ryoga118@keio.jp)

難波ちづる研究会

— 帝国史、植民地史、社会史 —

1. 研究分野

帝国史、植民地史、社会史

(特に国は定めない)

2. 学生への要望

様々な事象に興味をもち、それを掘り下げ、文献講読をはじめとする地道な調査を厭わない学生を求めます。

3. 選考について

a. 募集人数：8人

b. 選考内容

事前レポート、面接

c. 他学部入ゼミ、PEARL 生受け入れの可否
他学部のみ可

d. 選考基準

問題意識が明確で、きちんと文献を読み、自分の言葉で展開できているか。

4. ゼミ構成員

4年生：男子 人、女子 人
(他学部 人、留学中 人)

3年生：男子 5人、女子 1人
(他学部 人、留学中 1人)

5. 活動紹介

①ゼミ (火曜 4・5限)

輪読、プレゼンを中心に行います。

②サブゼミ (曜 限)

③パートゼミ

なし

④インゼミ

12月に経済学部の他のいくつかのゼミと行う。

⑤課外活動

なし

⑥ 三田祭

論文を作成し、発表する。

⑦ 夏休み

合宿を行う

⑧ 合宿

夏に行う

⑨ ゼミ必修授業

フランス植民地社会史

⑩ 経費

なし

6. ゼミ試験対策で使用した参考書

レポートのテーマに応じて各自用意

7. 先生が担当している講義

フランス植民地社会史、戦争と社会、経済史入門I、社会問題

8. ゼミ HP・SNS

Twitter：難波ちづる研究会 2020 入ゼミ

9. 連絡先

經濟地理

河端瑞貴研究会

武山政直研究会

河端瑞貴研究会

—地理情報科学(GIS),経済地理,都市地域政策—

1. 研究分野

「空間」を切り口に、現実の都市・地域の経済・政策課題を分析します。分析には、地理情報システム(GIS)を活用します。GISを用いると、空間情報を可視化したり、加工・作成、分析したりできます。経済学含め様々な分野でGISを用いた研究が行われるようになるとともに、政府によるオープンデータの推進等により、GISで利用できる空間データが爆発的に増えています。経済・政策課題の多くは、「空間」に関連しています。医療、環境、交通、福祉、防災などの政策課題を見ても、都市・地域の空間構造と密接に関わるものが少なくありません。発達著しいGISと空間データを活用することにより、経済・政策課題の理解や解決に有益な知見が提供できると期待しています。近年は、GISと空間統計を組み合わせた研究にも力を入れてみます。

2. 学生への要望

都市・地域の「空間」に関わる経済・政策課題に興味があり、研究したい人。GISと統計手法の習得と活用に意欲のある人を歓迎します。出席重視のため、欠席が多く見込まれる場合は入ゼミをご遠慮ください。

3. 選考について

a. 募集人数： 約 15 名

b. 選考内容：

1. 1次試験：筆記試験(統計学、ミクロ経済学(教科書持ち込み可、電子機器持ち込み不可))

2. 2次試験：面接試験(1次試験合格者のみ)

・試験当日、成績表持参(1・2年)[学籍番号

・氏名を記載した keio.jp 印刷物可]

・願書の志望理由の中で、研究したい都市

・地域の「空間」に関わる経済・政策課題を説明してください。

c. 日本語のゼミ活動に問題のないPEARL生は可能です。他学部の入ゼミも可能です。

d. 選考基準：1次試験は筆記試験および願書の内容で選考します。二次試験は面接で選考します。参考程度に成績表および説明会への出席状況も加味します。

4. ゼミ構成員

4年生：男子10人、女子6人
(他学部0人、留学中0人)

3年生：男子12人、女子4人
(他学部0人、留学中0人)

5. 活動紹介

①ゼミ(火曜3,4限,変更の可能性有)

1. 輪読：経済地理・都市経済学・計量経済学について本を主に取り扱い、知識を深めています。

2. GIS, R 言語演習：前半にスキルを学び、後半にそのスキルを用いて経済分析を行っています。そのスキルだけではなく、有効な使い方や切り口についても学ぶことが出来ます。

3. 論文報告：4年生は卒業論文、3年生は三田祭論文について定期的に報告を行って

います。

②サブゼミ（火曜5限,変更の可能性有）
サブゼミは3年生のみで自主的に行います。現在はGIS演習や三田祭論文の研究を進めています。

③パートゼミ
現在は行っていません。

④インゼミ
現在は行っていません。

⑤課外活動
特筆すべきものはありません。研究においても必要になった際、各自で行います。

⑥三田祭
3年生が5人程度のグループに分かれて、論文を作成し、発表します。

⑦夏休み
論文発表に向けて、ゼミ合宿等で研究を行います。

⑧合宿
毎年8月か9月に関東周辺で2泊3日程度の合宿を行います。オンオフのはっきりした楽しくも充実した合宿です。

⑨ゼミ必修授業
河端先生の経済地理をゼミ必修として3年生で履修します。また、計量経済学の基礎的な知識が必要となる為、計量経済学の授業も推奨されています。

⑩経費
教科書代、合宿費等。また、GISを自宅で使用したい場合、ある程度のスペックを持ったPCが必要となります。詳しくはゼミ員にお尋ねください。

6.ゼミ試験対策で使用した参考書

日吉時代に使用したミクロ経済学、統計学の参考書。特別に推奨されている参考書はありません。

7.先生が担当している講義

日吉：経済と環境(月曜2限)

三田：経済地理(未定,前期集中)

8.ゼミHP・SNS

<https://sites.google.com/keio.jp/mizuki-seminar/>

Twitter : @kwbt_seminar

9.連絡先

武山政直研究会

ーサービスのデザインとイノベーションー

1. 研究分野

本研究会では、サービスデザインの手法論を学ぶと共に、ビジネスイノベーションをテーマに実践的研究を行います。

サービスデザインは、1980年代に誕生した、デザインとビジネスを横断する新しい価値創造の方法論です。近年のサービスは、情報ネットワークの発展と普及を背景に、人の活動、モノ、メディア、活動、場所の組み合わせによって、新たな価値や事業を生み出すことに、この分野のチャレンジと面白さがあります。

研究への導入として、デザイン思考を体験的に学びます。デザイン思考は、問題の性質や範囲が明確でない状況下において、探索的に問題と解答を同時に導いていく創造的な問題解決法です。また、戦略的にサービスのイノベーションを生み出すための発想法、参加型ワークショップの技法などを順に取得していきます。

1年間の主な流れとしては、2ヶ月間のミニプロと8ヶ月間の本プロという2つのプロジェクトを行なっていきます。プロジェクトごとにいくつかの班に分けられ、それぞれ班ごとに活動していきます。ほぼ全てのプロジェクトは企業との連携による産学協同プロジェクトとして進められ、企業が実際に抱える問題や描きたい未来像について考え、提案する形になります。

2. 学生への要望

社会やビジネスが大きく変動する今日において、新しい価値を生み出すために正解

の無い可能性の世界を探索し、未来に形を与えていくデザイン力が求められています。

デザインというと、おしゃれなスタイリングや特別な才能を持ったデザイナーの姿を想像しがちですが、全ての人に、人間が持って生まれた基本的なデザインの力を発揮するチャンスが与えられています。

現在の学校教育では既存の問題に正解を見つけることが重視され、新しい問題を見つけ出すことや、あるべき世界や自分の姿を問う機会はほとんど与えられていません。学生達も大学の授業やゼミを、知識を身につけ正解を導くスキルを学ぶ場と捉えているのではないのでしょうか。

本研究会では、製品やサービス、ビジネスモデル、社会の組織や制度、知識や常識は全て可変であるという前提から知的な冒険を始めます。そして、これまでにない豊かさや喜びを作り出そうとする意志と勇気を持った学生達が、志を同じくする人々との交流を通じて自らのアイデアを表現し、実現する試行錯誤を繰り返しています。

このような研究会の問題意識と文化に共感し、世の中を変えていくチャレンジ精神に満ち溢れた学生との出会いを楽しみにしています。

3. 選考について

a. 募集人数：15名前後

b. 選考内容

1次) エントリーシート・課題レポート提出

2次) 成績表コピー/面接

c.他学部入ゼミ、PEARL 生受け入れの可否

他学部入ゼミは全面的に受け入れます。

PEARL 生に関しては

- ① 4 月からのゼミ参加が可能
- ② 日本語による十分なコミュニケーションが可能の 2 点を満たせば可能です。

d.選考基準

課題評価・研究/ゼミへの重視度など

4.ゼミ構成員

4 年生：男子 7 人、女子 4 人

(他学部 0 人、留学中 1 人)

3 年生：男子 9 人、女子 5 人

(他学部 2 人、留学中 3 人)

5.活動紹介

①ゼミ (月曜 4・5 限)

月曜日の本ゼミでは、各班の進捗状況をプレゼンテーション形式で報告します。先生からのフィードバックをもらい、その後のプロジェクトワークに活かしています。

②サブゼミ (水曜 4・5 限)

水曜日のサブゼミでは、各プロジェクト班で集合し、学生のみでプロジェクトワークに取り組みます。

③パートゼミ

(不定期)

④インゼミ

(不定期)

⑤課外活動

(不定期)

⑥三田祭

三田論なし

⑦夏休み

活動あり。活動頻度は班によって異なります。

⑧合宿

あり。(夏合宿・秋合宿)

⑨ゼミ必修授業

特になし。但し、武山先生が担当している経済地理はゼミの内容と通ずるところが多くあります。

⑩経費

合宿費のみ(額は年によって変動します)

6.ゼミ試験対策で使用した参考書

知識を問う試験ではないため指定参考書はありません。しかし、Twitter や公式 HP でデザイン思考やサービスデザインの理解を手助けしてくれる推薦図書を毎年紹介しています。試験対策として何をすればいいかわからない場合にはチェックしてみてください。

7.先生が担当している講義

経済地理(三田・通年・月曜 2 限)

経済と環境(日吉・春学期・火曜 5 限)

8.ゼミ HP・SNS

HP : <https://keg-lab.jp/>

Twitter: @takeyama_2020

LINE@: @takeyamalab2020

9.連絡先



開発経済学

大平哲研究会

山田浩之研究会

大平研究会

—開発経済学・地域経済学—

1. 研究分野

大平研究会では、国内外の地域経済に関する諸問題について勉強しています。具体的な地域を取りあげ、その経済の動きを理解するための経済学的手法を学習することが研究会の主な活動目的です。

開発経済学の理論の考え方を確認するように努力しています。具体的な経済分析では、基礎にある理論の考え方の理解よりも、分析者にとって都合の良い結論をはやく出すことが優先されがちです。しかし、どのような理念に基づいて作られたものなのかをきちんと理解しなければ分析の内容が希薄になります。都道府県庁や援助機関が実際につかっている研究報告書を正確に読む能力を身につけることが目標ですが、その基礎にある経済学の考え方を確認することに時間をかけます。

ものごとを見る基本的な視点を身につけることこそが大学での学習での眼目です。経済学の考え方を基礎にしながら地域経済を理解することを本研究会では重視します。その際必要があれば、現地にいた人に会うことや、対象地域に行くことも推奨しています。

実際の研究会活動は本ゼミとサブゼミとにわかれます。今年度の本ゼミでは、三田祭論文の参考文献について理解を深める輪読、三田祭論文の中間発表、フィールドワークの聞き取り練習などをおこなっています。サブゼミでは、学生が自主的に選択した三田祭論文のテーマについて議論を深めています。その際、可能な限り実際の現場を見る

ようにしています。文献調査でわかったつもりになっても、実際の現場を訪問し関係者の話を聞くと、理解が深まるものです。

2. 学生への要望

入ゼミ時点での経済学の理解度はそれほど高度なものを要求しません。大事なものは、マクロ経済学、ミクロ経済学、統計学、どれでも物怖じせず理解しようとする姿勢と、そのための基礎学力です。数式展開をはじめとする理論操作の能力よりも、理論の考え方を理解しようとする学生が集まることを望んでいます。

また本研究会では、国内、国外のバランス、理論と実際のバランス、等々、さまざまな面でのバランスと多様性を大事にしています。

3. 選考について

a. 募集人数：12名程度

b. 選考内容：未定

昨年度の例:

(1) 今すぐ三田祭論文を書くことを想定した研究計画書の作成

(2) 面接と成績表の提出

c. 他学部入ゼミ、PEARL 生受け入れの可否

他学部入ゼミ：可

PEARL 生受け入れ：可

d. 選考基準

非公開です。

4. ゼミ構成員

4年生：男子11人、女子2人

(他学部0人、留学中1人)

3年生：男子12人、女子5人

(他学部0人、留学中2人)

5.活動紹介

①ゼミ（火曜4・5限）

輪読と各サブゼミグループの発表をおこないます。今年度は三田祭論文の各サブゼミグループ参考文献を輪読しています。

②サブゼミ（グループにより異なる）

サブゼミで扱うテーマは自分たちで決めることができます。今年度は愛知県豊橋市の持続可能な開発、湯河原の広域観光圏の形成、フィリピンの参加型開発、岡山県におけるロケツーリズムの4つについて研究しています。

③パートゼミ

②を参照にしてください。

④インゼミ

おこなっていません。

⑤課外活動

飲み会、旅行など適宜ゼミ員が企画しています。

⑥三田祭

本年度はサブゼミで扱うテーマについて発表をおこなう予定です。

⑦夏休み

合宿以外は参加必須の活動はありません。しかし、3年生はグループごとに三田祭論文完成に向けて活動する場合があります。

⑧合宿

5月：新歓合宿（1泊2日）

ゼミ員の親睦を深めるため、茨城県石岡市にある有機農園のあらき農園で農業体験をし、近くの宿泊施設に宿泊しました。

9月：夏合宿（1泊2日）

3年生の三田論完成に向けての発表や4年生の卒論中間発表をし、BBQを楽しみました。

⑨ゼミ必修授業

先生が三田で開講している授業は、研究会での理解を深めるため履修を強くすすめます。

⑩経費

新歓合宿と夏合宿あわせて3万円程度で

⑪ゼミ6.試験対策で使用参考書

昨年度はテーマが人それぞれだったので、決まった参考書はありませんでした。

7.先生が担当している講義

日吉：マクロ経済学初級Ⅱ（秋・火曜1限）

三田：農業経済論（春秋・火曜3限）、格差と援助の経済学（春秋・水曜1限）、現代資本主義論（秋・水曜2限）

8.ゼミHP・SNS

<http://web.econ.keio.ac.jp/staff/tets/kougi/seminar/>

twitter: @OhiraSeminar

9.連絡先

山田浩之研究会

—開発経済学・経済発展論—

1. 研究分野

私達の研究分野は広く言うと経済発展論、とりわけ開発経済学です。開発経済学とは、人々の生活水準をあげるために、教育や食料といった様々な開発ニーズに応じて開発途上国で行われる開発について研究する学問です。様々な視点から見るために計量経済学・ミクロ経済学・マクロ経済学を基礎とし、ときには応用分野からの必要な知識も活用して、日々課題に取り組んでいます。

これらを踏まえ、本研究会では主にアジア・アフリカを中心とした新興国・開発途上国の経済問題に関しての知識及び分析能力の習得に主眼を置く予定です。とりわけ、関心分野のトピックの分析を行えるようなデータ分析の能力を磨きます。さらに論理的思考能力・文章執筆能力・プレゼン能力を養うために、グループに分かれての論文の執筆とチームに分かれてのディベートを開催する予定です。また、学生の希望と主体性を重んじた上で、教室内に留まらず途上国に足を運び自身の目で見るスタディーツアーも行います。

教室内の議論だけで終わらせず、自らの問題意識をさらに深め、より広い知見を持ち、問題を抱える人々と同じ立場に立つために私たちは様々な方法を探っています。将来国際機関で働きたい人や国際的な仕事をしたい人、開発経済・国際経済の研究者を目指す人向けの研究会を念頭に置いています。日本の将来を真剣に考えたいという人も歓迎します。

2. 学生への要望

開発経済学に興味を持たれる学生さんのきっかけ・動機は様々だと思いますし、大きな心意気をもってゼミを志望してくれることは素晴らしいと思います。ただし、そういった心意気だけで乗り越えようとせず、その土台となる様々な能力をこの研究会を通して身につけていって欲しいと思います。ゼミの活動は日が経つにつれて本格化し、時間を惜しみなく注ぎ、レベルも上がります。強い問題意識と、ゼミに積極的に参加・貢献したい学生のみを求めます。「ゆるいゼミ」や「楽勝ゼミ」ではないので、やる気が続かない人の応募はお勧めしません。

また、日吉のミクロ・マクロ・統計といった基礎的な科目をしっかりと履修し、その知識をゼミで活かせるようにしてください。

3. 選考について

- ① 募集人数：約 10 人
- ② 選考内容 レポート、成績、面接
- ③ 他学部入ゼミ、PEARL 生受け入れの可否： 他学部は受け入れる、PEARL は行わない
- ④ 選考基準：レポート、志望動機、成績、面接による総合評価

4. ゼミ構成員

- 4 年生：男子 8 人、女子 3 人
(他学部 0 人、留学中 1 人)
- 3 年生：男子 6 人、女子 6 人
(他学部 0 人、留学中 3 人)

5. 活動紹介

①ゼミ（水曜4－5限）

<春学期>『開発経済学－貧困削減へのアプローチ』と『入門計量経済学』の輪読を行い、プレゼン・ディスカッションを通して開発経済学と計量経済学の基礎を学びます。

<秋学期>3年生は三田祭論文の執筆活動を行います。4年生は卒業論文の進捗報告を行います。

②サブゼミ（火曜4－5限）

基本的に3年生のみで行います。春学期はデータ分析に必須のツールとして統計ソフトStataの操作方法を習得します。秋学期は三田祭論文の執筆に取り組みます。

③パートゼミ

パートゼミは行っていません。

④インゼミ

確定事項ではありませんが早稲田大学の戸堂ゼミと行っています。

⑤課外活動

⑥三田祭

三田祭論文の出展発表を行います。

⑦夏休み

スタディーツアーを行います。またグループごとに三田祭論文の執筆準備を進めます。

⑧合宿

夏休みに途上国でスタディーツアーを行います。今年はミャンマーに9日間滞在しました。

⑨ゼミ必修授業

開発経済学 a/b

⑩経費

ゼミ費、合宿費が主にかかります。

6. ゼミ試験対策で使用した参考書

事前に発表された課題から各自内容に合わせた参考図書を使用します。

7. 先生が担当している講義

長寿と金融（三田、秋木2）

開発経済学 a/b(三田、水3)

8. ゼミ HP・SNS

Twitter:@hyamadaseminar

HP:

<https://hyamadaseminar.wixsite.com/developmentecon>

9. 連絡先

財政社会学

井手英策研究会

井手英策研究会

—財政社会学・社会問題—

1. 研究分野

僕の担当科目は財政社会学、社会問題です。歴史的なアプローチから財政や社会の問題、そして日本社会のこれからについて学んでいます。近年、経済のグローバル化に伴って、日本社会のあり方は大きな変化を遂げつつあります。こうした社会の変容を戦前以来の財政のあり方との関連から研究しています。特に財政的要因だけではなく、信頼や規範、痛税感といった社会的要因が財政運営にどのような影響を与え、そのことが社会にどのような反作用を与えているのかに関心を持っています。

2. 学生への要望

ゼミでは3つのイベントがあります。1)春に広島県の介護施設を訪ねる、2)夏休みに全国の大学と合同ゼミを開く、3)12月に京都大学との討論会を行う、です。これら全てへの参加が単位取得の前提ですので、サークル等のイベントとの調整をできることが入ゼミの条件となります。

春学期は古典の輪読と合同ゼミへの準備をします。それらを元に討論会へのペーパーを書き上げるのが秋学期の課題です。サブゼミでの準備もありますし、ゼミの活動は相当活発なものだと思います。

研究会は学生生活の中心にできない諸君には大きな負担になりますが、「2年間思っきり勉強したい」という意欲のある学生諸君にとってはやりがいのあるゼミです。僕も可能な限り時間を割いて、飲み会やイベントに参加しています。やる気のある学生諸君の応募を期待しています。

3. 選考について

a. 募集人数

10人強

b. 選考内容

ペーパーの提出と面接

c. 他学部入ゼミ、PEARL生受け入れの可否

d. 選考基準

ペーパーや面接の内容はもちろん、応募書類やメールでのやり取りも含めて総合的に判断する。

4. ゼミ構成員

4年生：男子6人、女子4人

(他学部0人、留学中1人)

3年生：男子6人、女子0人

(他学部0人、留学中0人)

5. 活動紹介

①ゼミ (水曜4、5限)

各個人が予習して挑み、議論をしています。

②サブゼミ (木曜5限)

3年生は週に1回、班別の論文発表の準備のためなどに集まっています。時間に関してはメンバーで相談して決められます。

③パートゼミ

なし。

④インゼミ

合同インゼミ。京大諸富ゼミと実施。

⑤課外活動

任意で随時。

⑥三田祭

特になし。

⑦夏休み

合同インゼミに参加。

⑧合宿

5月、8月、11月に実施。

⑨ゼミ必修授業

なし。

⑩経費

合宿費など

6.ゼミ試験対策で使用した参考書

特に指定なし。

7.先生が担当している講義

三田：産業社会学（秋、火曜1、2限）

8.ゼミHP・SNS

<https://twitter.com/ideseminar>

9.連絡先

医療経済学

井深陽子研究会

井深陽子研究会

—医療経済学—

1. 研究分野

医療・福祉業の就業者数は現在労働者の13%あまりを占め、他産業と比べて著しい就業者割合の伸びを示している成長産業です。医療経済学は、このような医療系産業の特徴を、人間の経済活動と健康の関わりという観点から学ぶ経済学の一分野です。

経済は個人や企業、政府の活動から成り立っています。これまで皆さんが学んだ経済の動きを学ぶ理論において、健康という要素を明示的に扱うことは無かったかもしれませんが、実際の経済活動の多くの部分で健康という要素が様々な形で関わってきます。

例えば、ミクロ経済学で学んだ労働と余暇にそれぞれどれだけの時間を投入するかという問題を考えてみましょう。ジムなどで体を動かすことに時間をあてるのか（余暇）、それともその時間をアルバイトにあてるのか（労働）、というような意思決定は、日常的に行われていることでしょう。この様な意思決定は、経済活動と個人の健康状態の両方に影響を及ぼします。すなわち、健康状態と経済活動は相互依存関係にあるわけです。

国家は個人の集合体からなりますから、このような個人の単位での健康と経済活動の依存関係は、国の経済政策や医療保健政策を考える上でも重要になります。

本研究会では、医療経済学の諸課題をデータを用いて実証的に分析することを目指

します。経済学は人間の意志決定や経済の動きを精緻な理論を用いて分析することが大きな特徴です。同時に、構築された経済理論が妥当であるのかについて、データを用いて検証する実証研究が、1990年前後を境にますます重要になってきていることが専門の学会誌においても指摘されています。

政策の議論において、Evidenced-basedという言葉がよく聞かれますが、実際に行われた政策の有効性を評価する政策評価の分析は実証分析の一つの形態です。実証分析の一つの魅力は、ある政策の効果を評価する場合に、効果があったかどうか、だけではなく、その効果がどの程度の大きさであったか、を定量的に評価することができる点です。本研究会では、実証分析に必要な計量経済学の手法を学んだ上で、その手法を利用した医療経済分野の研究を学びます。

2. 学生への要望

医療経済学は、経済学においては、比較的新興の分野であり、未だ解明されていない問題がたくさんあります。最近では、日本でも科学的根拠を提供するのに十分な質の高い個票（主に個人レベル）のデータが入手可能となり、この様な諸問題を分析する能力を有する人材の必要性が高まっています。研究分野の内容に加え、この様な点に魅力を感じる方を歓迎いたします。

研究会活動では医療経済学における研究を、学び・理解した上で、研究課題や分析手

法、結果の解釈を活発に議論し、自身の研究につなげることを目指します。積極的であることは、研究会活動を自分にとって、また担当教員を含めたメンバー全員にとって充実したものにするために重要です。

研究会は少人数で学ぶことの出来る貴重な機会です。少人数である分、一人一人の果たす役割が重要になってきます。個人の果たす役割の重要性を理解して、研究会活動を行っていただける方を希望します。

3.選考について

a.募集人数：10人程度

b.選考内容

A)ミクロ経済学、統計学、英語の筆記試験
(合計で90分) B)面接 C)成績表 D)
レポート (B日程のみ)

c.他学部入ゼミ、PEARL生受け入れの可否
他学部入ゼミ:歓迎します。

PEARL生受け入れ:歓迎します。

d.選考基準

願書やA)からD)より総合的に判断。願書の志望理由を重視します。(詳しくは教授説明会にて)

※項目1,2,3は教員記入

4.ゼミ構成員

4年生：男子10人、女子5人
(他学部0人、留学中0人)

3年生：男子8人、女子7人
(他学部0人、留学中1人)

5.活動紹介

①ゼミ(水曜4.5限)

春学期は本の輪読を行います。本年度3年生は英語の教材『The Economics of Health Reconsidered』(Rice Thomas H)を扱いました。担当者が自分の範囲を解説し、質疑応答したりディスカッションポイントを設けて話し合ったりして議論を深めました。4年生は1人1つ論文を扱って説明するという流れでした。また、1年を通して卒業論文の作成にも取り組みます。

②サブゼミ(水曜6限)

学生のみで集まって授業の内容確認や今後の予定の確認などを行ったり、三田論作成に向けて集まったりします。

③パートゼミ

実施しておりません。

④インゼミ

濱秋研究会(法政大学)
菅原研究会(法政大学)
酒井研究会(法政大学)
高久研究会(一橋大学)
河口研究会(成城大学)
若林研究会(東北大学)

※若林研究会とのインゼミは、濱秋・高久研究会との合同開催となります。

⑤課外活動

ソフトボール大会参加など、ゼミ生の希望により行います。(本年度はソフトボール大会不参加)

⑥三田祭

三田祭論文を作成し、発表します。

⑦夏休み

三田論のグループで準備して進めます。

⑧合宿

2泊3日で行います。3年生は三田論の、4年生は卒業論文の進捗発表をします。

⑨ゼミ必修授業

演習 a/b (春・火曜 3.4 限) (山田・津谷・中嶋先生との合同授業)

医療経済学 (春・水曜 2 限)

⑩ 経費

合宿費 約 28000 円

ゼミ費 2000 円 計約 30000 円

6.ゼミ試験対策で使用した参考書

ゼミ試験は基本的な内容が聞かれるので特に指定する参考書はありません。

7.先生が担当している講義

医療経済学 (水曜 2 限)

演習 a/b(火曜 3.4 限) (山田・津谷・中嶋先生との合同授業)

高齢化に伴う諸問題:経済と医学の観点から (秋・水曜 6 限)

8.ゼミ HP・SNS

mail: ibuka.healthecon@gmail.com

twitter: @ibuka_seminar

HP:<https://sites.google.com/view/ibuka-seminar/>

9.連絡先

行動経済学

大垣昌夫研究会

大垣昌夫研究会

— (行動経済学) —

1. 研究分野

担当者は2005年頃まではマクロ経済学、計量経済学、国際マクロ経済学を専門分野として研究してきましたが、現在の研究分野は主に行動経済学です。行動経済学は最近になって大きな発展を遂げた分野で、2002年には行動経済学の業績でカーネマンが、2013年にシラー、2017年にセイラーがノーベル賞を受賞しました。従来の経済学は、利己的で、無限の計算能力などを持つという意味で超合理的な「経済人」を仮定しています。行動経済学は、心理学などで使われてきたようなアンケート調査や、経済実験を用いて、「経済人」の仮定の下では説明できない多くの重要な経済行動が現実にあることを示してきました。さらに「経済人」に仮定を用いないさまざまな経済理論が構築されてきて、特にファイナンス、発展経済学などに分野で応用されてきました。

本研究会では、学生がグループを作り、行動経済学の仮説をアンケート調査やインタビューなどの行動経済学の手法を用いて実証研究を行うことを目標とします。3年生は特に「世界観が経済行動に与える影響」というテーマの中で見つけた仮説について、4年生は自由なテーマで、それぞれ1年間かけて研究することとします。

世界観とは、哲学者のカントが使い始めた言葉とされていて、哲学や文化人類学でいろいろな意味で使われています。文化人類学では文化との関係で、倫理や規範などの価値観や、何を美しいと感じるかなどの感情も含めます。ゼミでは文化人類学の一つの定義、

「ひとつの人々の集団が生活を秩序づけるために用いている、現実の性質に関する認識、感情、判断に関する、基礎的な仮定と枠組み」を採用しています。行動経済学の研究に用いる目的上、経済学の選好は世界観に含めないのが注意が必要です。

2. 学生への要望

担当者の講義「国際経済学と行動経済学ab」は必修かつ要出席とします。「世界観の経済行動への影響」という研究テーマで3年生の一年間研究することに興味のある学生を募集します。グループ研究となるので、自分の特性をグループ研究に活かせることを嬉しく思う学生の参加を期待します。たとえば対人関係に積極的な性格の人は、調査対象グループとの交渉の役目をしたり、心理学の授業をとった人は心理学の結果や手法を研究に取り入れたり、英語の得意な人は英語の関連研究の論文を研究会で紹介したり、日本語の得意な人はアンケートの質問票でわかりやすい質問を作ったりする、というようなことです。

3. 選考について

a. 募集人数：約18人

b. 選考内容

レポートと面接（学生によるもの、および担当者によるもの）、グループディスカッション。

レポートの課題などの詳細はゼミHPには発表されます。

c. 他学部入ゼミ、PEARL生受け入れの可否

他学部入ゼミは受け入れ、PEARL生は受け入れていません。

d.選考基準

意欲と興味の度合い、共同研究の研究能力、リーディング課題での対話能力を中心に、男女比などのゼミ生のバランスを考慮しつつ総合評価します。バランス上、体育会学生は数人までとする予定です。

4.ゼミ構成員

4年生：男子14人、女子4人

(他学部0人、留学中0人)

3年生：男子9人、女子9人

(他学部0人、留学中1人)

5.活動紹介

①ゼミ(月曜4, 5限)

3年生の本ゼミ活動は以下の二つに分かれます。

1.リーディング課題の発表

ディスカッション課題を読んでディスカッションを行います。たとえば春学期には、入ゼミ課題本でもある『これからの「正義」の話をしよう』から学んだ世界観をもとに、与えられたテーマに対してグループごとに賛成、反対に分かれて意見を発表し、ディスカッションします。

《扱った事例(一部)》

- ・日本政府は死刑制度を廃止すべきか
- ・アメリカでの奴隷制への保障について、先祖が奴隷を保有した人であっても、本人が奴隷を保有したことのない人に保障のための税を課すべきか
- ・公共部門の道徳的・宗教的不一致に対して、政府は積極的に関与すべきか

2.三田論に向けた研究発表

3人一組の研究グループごとに「世界観が経済行動に与える影響」に関して、自由にテーマを設定します。三田論に向け、各グループの研究の進捗状況を発表していきます。教授

は学生に主体的な研究活動を励まし、的確なフィードバックをくださいます。

《本年度研究テーマ一覧》

- ・無常観と共同体主義が旅先でのお土産の購買行動に与える影響
- ・ポイントカードの利用におけるミニマリズム的思考の関与について
- ・罪の意識と恥の意識が他人を頼る行動に与える影響
- ・懐疑主義がロングセラー商品の購買に与える影響
- ・集団への帰属意識が特定のファッションの着用頻度に与える影響
- ・完璧主義/8割主義がフリマアプリの活用に与える影響

②サブゼミ(木曜4, 5限)

本ゼミでのディスカッションや三田論に向け、リーディンググループ、研究グループに分かれて課題発表の準備、研究を進めています。

③パートゼミ

特になし

④インゼミ

近畿大学経済学部経済心理コースの山根承子ゼミとのインゼミ活動を始めました。

⑤課外活動

行動経済学会での研究発表
実験補助等

⑥三田祭

三田論の発表を行います。ブースも設けているので、興味のある方はぜひお越しください。

⑦夏休み

三田論に向けた研究をグループごとに進めません。

⑧合宿

毎年2泊3日の合宿を行なっています。合宿では研究だけではなく、レクリエーション等を通じてゼミ生の交流を図ります。

⑨ゼミ必修授業

大垣先生の火曜日1,2限「国際経済と行動経済学」の履修が必要です。(三田キャンパス/要出席)

⑩経費

特になし

6.ゼミ試験対策で使った参考書

『これからの「正義」の話をしよう』(マイケル・サンデル著)

7.先生が担当している講義

「国際経済と行動経済学 a,b」
(春火曜1,2限)

8.ゼミHP・SNS

HP: <http://ogakiseminar.sakura.ne.jp/>

Blog: <https://mogakisemi.exblog.jp/>

Twitter: @ogakiseminar

9.連絡先

環境経済学

大沼あゆみ研究会

大沼あゆみ研究会

— 環境経済学 —

1. 研究分野

当研究会では、環境経済学についての研究を行います。現在、地球温暖化、生物多様性減少、廃棄物処理などをはじめ、さまざまな環境問題が存在していますが、その背景にはその主要要因として多くの経済活動があることがほとんどなのです。

環境経済学はどのような経済活動が環境問題をもたらしているのか、そしてどのような経済政策を行うことで環境問題が緩和・解決できるのかを探求するものです。それぞれの環境問題に特徴的な経済学的アプローチもあれば、多くの環境問題に共通するアプローチもあります。

本研究会では、三年時は、主に自然保全(生物多様性保全)の問題についての研究を行い、環境経済学の考え方を学ぶとともに、現実の自然劣化については幅広く知識(現状・対策・国際的取組・関連ビジネス)を吸収してもらいます。夏合宿では国立公園を訪問するなど、さまざまな現場を見ることを計画しています。一方、四年時に執筆する各自の卒論は広く環境問題の中からテーマを選び研究を進めてもらいます。

ちなみに、私の研究テーマは、「持続可能な発展」と「生物多様性保全」についてです。生物多様性の持続可能な保全システムや生物多様性を経済に活用したさまざまな事例も研究しています。

2. 学生への要望

環境問題は純粋な気持ちから心を痛める人が多いものです。しかし、環境保全に対し

て行われる提言の中には、こうした気持ちを反映してか若干情緒的な提言も少なくありません。そして、そうした提言は、持続的なシステムづくりという観点からは評価できないものも多いです。持続可能な保全システムの設計には経済学的な論理的考えは欠かせません。一方で、環境問題のほとんどは、適切な保全システムがまだ完成途上にあります。経済学への需要は高く、学生諸君にもさまざまな観点から提言を行なってくれることを期待しています。

3. 選考について

a. 募集人数

A 日程と B 日程を合計して 15 名程度

b. 選考内容

課題レポートと面接および成績表

c. 他学部入ゼミ：受け入れる

PEARL 生：原則として受け入れない(日本語で授業を行うため)

d. 選考基準

レポートと面接の総合評価。自然や環境問題に対する関心など幅広くお話ししてもらいます。これまで環境問題に実際に取り組んだことがあったり、自然や野生生物が好きな学生諸君を歓迎します。

4. ゼミ構成員

4 年生：男子 0 人、女子 0 人
(他学部 0 人、留学中 1 人)

3年生：男子 11人、女子 4人
(他学部 0人、留学中 1人)

5.活動紹介

①ゼミ (火曜 4・5限)

活動は下記2種類の発表形式で進み、先生や他のゼミ生も質問をするなど積極的な議論をします。

・輪読：指定された教科書を班ごとに輪読します。

今年度の本：「Sustaining the Commons」

・新聞発表：環境問題に関する新聞記事を見つけ、経済学的観点から分析し解決策を発表します。ゼミは先生を含め和やかな雰囲気で行われます。

2年生へのPR・メッセージ

環境経済学を学べる唯一のゼミです。何か他に頑張っていることがあっても両立が可能です。何かわからないことや不安なことがあったらゼミ説明会やSNSなどで気軽に質問してください！

②サブゼミ (金曜 4・5限)

主に三田祭論文の準備をする時間に充てられます。5名程度の班で現在はそれぞれIターン・廃棄物・生物多様性に分かれて研究しています。

③パートゼミ

特になし。

④インゼミ

今年度はなし。

⑤課外活動

特になし。

⑥三田祭

三田祭論文の展示を行います。

⑦夏休み

夏合宿があります。三田祭論文に向けてフィールドワークや準備をするチームもあり

ます。

⑧合宿

年1回、夏に国立公園で合宿をします。今年度は9月初旬に北海道の阿寒摩周国立公園に行きました。行き先はゼミ生が話し合って決めます。

⑨ゼミ必修授業

環境経済論 (春/火曜 1・2限)

⑩経費

ゼミ費：特になし

合宿費：5万円前後 (合宿地により交通費が変動します)

6.ゼミ試験対策で使用した参考書

特になし。

7.先生が担当している講義

日吉：経済と環境 (秋/金曜 1限)

三田：環境経済論 (春/火曜 1・2限)

8.ゼミHP・SNS

HP: onumaseminar.com

Twitter: @onumazemi2020

9.連絡先

都市計画

長谷川淳一研究会

長谷川淳一研究会

—都市政策・都市文化—

1. 研究分野

私は、授業では欧米経済史関係の科目を担当しており、そこでは産業革命以降を中心に話をしているが、自分自身の研究では現代の日本とイギリス、特にそれぞれの都市政策や都市文化に注目してきた。そもそもは、イギリスの戦災都市(第二次世界大戦中にドイツ軍の空襲で破壊された都市)の再建を研究し、そこから、福祉国家志向のイギリスの戦後再建やイギリスの都市について検討してきた。

また、日本についても戦災復興を皮切りに、1950年の首都建設法や国土総合開発法の制定を、戦後復興の一環として都市計画・国土計画関連の分野でも新しいシステムが構築されたのか否かという観点から検討してきた。いずれの国においても、ここ30年ほどの規制緩和路線以前の時期の土台を築いた時期であり、改革とはいっても、規制緩和路線とは性質的にむしろ正反対といえるものがすすめられようとした時期ではあった。

最近では、まず、高度成長期であった1960年代に関心を持っている。イギリスに関しては、ウィルソン政権期の改革志向の強い経済政策や、寛容社会の到来についての検討を進めようとしている。この経済政策とは、軍需産業での先端技術を普通の民間産業に広めることで生産性を向上させようとしたテクノロジー省の試みである。寛容社会とは、モッズやスウィング・ロンドンといったことばに象徴されるような、奔放な若者文化のことである。

日本に関しては、佐藤政権期の1968年に、高度成長期の都市問題対策として制定された都市計画法について検討している。また、太陽族、六本木族、みゆき族、原宿族、フーテン族等々、高度成長期の若者文化についての共同研究を進めている。

2. 学生への要望

ゼミにおいても、日本やイギリスの戦後史や今現在の都市に関する政策や文化といったトピックは大いに歓迎したい。

3年生は、いくつかの文献を輪読した後テーマを決めて、三田祭論文および12月に開催する他ゼミとのインターゼミに向けての作業を行う。昨年は、山手線の新駅開発についての論文作成を行った。

4年生は例年、各自がトピックを考えて、卒論作成に進捗する。

ゼミでは、この三田祭論文やインターゼミをはじめ、ゼミにおける共同作業・活動に積極的に取り組んでほしい。その上で、自分自身で課題を決め、様々な資料を探し求めて、卒論に取り組めるようになってほしい。

3. 選考について

a. 募集人数：若干～10人

b. 選考内容：筆記試験、面接

c. 他学部入ゼミ：可

PEARL生受け入れ：可

d. 選考基準

筆記試験は、都市政策に関する内容を中心としたものにする予定である。また、面接では、どういった研究課題をやりたいのかについて、問題意識、研究上の意義を含

め、具体的且つ詳細に述べられるかどうか
も重視したい。その際には、どういう先行
研究や、具体的な政策や計画、さらには問
題点があるのかを、より詳しく調べ、した
がって、より多く語ることのできる者が、
より高く評価される。

4.ゼミ構成員

4年生：男子7人、女子2人

(他学部1人、留学中0人)

3年生：男子4人、女子2人

(他学部1人、留学中0人)

5.活動紹介

①ゼミ(火曜4,5限)

今年度について、前期はまず、過去三回の
参議院選挙について各自テーマを決めて調
べ、それを結集してひとつのプレゼンにま
とめ、教授に対して発表を行いました。そ
の後、「商業施設から見る渋谷」という研
究テーマを私たち自身で決定し、ひとつの
プレゼンにまとめて教授に対して発表を行
いました。後期は、三田祭論文やインター
ゼミに向けた準備を行う予定です。

②サブゼミ

長谷川ゼミではサブゼミを行っていま
せん。自由な時間をお過ごしください。

③パートゼミ

長谷川ゼミではパートゼミを行っていま
せん。以下同文。

④インゼミ

12月初旬にあります。頑張っていま
す。

⑤課外活動

特にありません。

⑥三田祭

三田祭で論文を発表します。そのために授
業や夏休みの時間を使って準備を行いま

す。

⑦夏休み

今年度は一度も集まっていません。年によ
ってバラバラです。

⑧合宿

特にないです。企画してください。

⑨ゼミ必修授業

ありません。

⑩経費

ゼミ旅行がない場合は課外活動で使うカフ
ェ代や交通費しかかかりません。

6.ゼミ試験対策で使用した参考書

ゼミの試験問題となる論文をTwitterで配
信する予定なのでそれをダウンロードして
印刷してください。

7.先生が担当している講義

日吉：経済史概論I【春・月曜3限】

三田：欧米経済史b【春・月曜1,2限】

社会史a(SOCIAL HISTORY A)【春・火
曜3限】

社会史b(SOCIAL HISTORY B)【秋・火
曜3限】

8.ゼミHP・SNS

Twitterアカウント：@keiohasegawa

9.連絡先

PCP

研究プロジェクト

Professional Career Program (PCP)

1. 研究内容

Professional Career Program (PCP) とは慶鹿義塾大学経済学部が、カリキュラム改革の一環として、2005年度に学部内に設置したプログラムです。新カリキュラムは、卒業後のキャリア・パスを明確に意識させることによって学生の学習意欲を喚起し、同時に教育サービスを向上させるために導入されました。原則として経済学部の3-4年生を対象に、将来のキャリア形成に役立つ実践的な経済学教育を少人数クラスでかつ英語で提供します。講義・授業中の質疑応答・試験のほか、コーディネーターとの会話・連絡はすべて英語で行われます。

また、PCP では次のような教育目標の達成を目指しています。

- ・基礎となる経済学的な考え方の習得。
- ・数量的分析手法の習得。
- ・関連する経済学領域の基礎の習得、政策論の分析折砕組みの理解。
- ・共同研究・個別研究を通じての、論文作成・プレゼンテーションを含むリサーチ・スキルの学習。
- ・プロフェッショナル・キャリアを見据えた語学スキル（英語・第二外国語）の習得。

2. PCP の目的

PCP は、職業人として世界的に活躍するキャリアを築くことを目指す学生および、国内外の大学院・専門職大学院（法科大学院、行政大学院、ビジネススクール、開発関連大学院などのプロフェッショナルスクール）に進学することを視野に入れている学生のために開設されました。以下の2つ

の側面において学生の指導を行うことにより、国際的な視野に立つ人材・未来への先導を行う真のリーダーを育成します。経済学専門科目の学習・リサーチ・スキルの習得：このプログラムに参加する学生は、まず基礎となる経済学的な考え方および数量的分析手法を習得します。その後、各自の興味に従って複数の専攻コースの中から一つを選択し、より専門的な領域の基礎知識を学びます。各設置科目の中では政策論が積極的に取り入れられているため、学生は政策分析の枠組についての理解を深めることができます。そして共同研究と個別研究を通じて、リサーチ・スキルを高めま

す。語学スキルの向上：授業や試験は勿論、コーディネーターとの会話や連絡が全て英語で行われます。さらに、英語以外の外国語を学習することも奨励されています。将来のキャリア計画を見据えたうえで語学能力を向上させることができます。

ゼミを基軸にした大学教育との違い

従来、慶鹿義塾大学経済学部の教育サービスは、「講義科目」のほか、少人数教育としては「研究志向の強いゼミ」のみがありました。これに対し PCP を加えた新しい教育サービスでは、少人数教育の選択肢として、ゼミのほかに「研究プロジェクト」と「PCP」があります。PCP では、英語による実践的な経済学教育を少人数で行うことによって、国際社会で活躍する人材・研究能力の高い人材を育成します。

3.選考について

選考内容

願書のみ。ただし第二学年までの成績において GPA 2.5 を取得していること。

TOEFL iBT 79 点または IELTS 6.5 以上を取得していることが応募条件です。

4.ゼミ構成員

4 年生：男子 10 人、女子 15 人

(留学中・留学予定者 8 人)

3 年生：男子 26 人、女子 17 人

(留学中・留学予定者 11 人)

5.活動内容

①課外活動

毎年、韓国の延世大学、中国の精華大学と合同で、ABF というプログラムを開いており、参加しています。今年は韓国が舞台でした。

②三田祭

PCP として三田祭で活動することはありません。

③夏休み

PCP で強制的に集まるイベントはありませんが、ABF に参加する生徒や、インターン、別のサマースクールに参加する生徒等、様々です。

④合宿

四年生主催で年に一度行います。

⑤授業

Academic Writing、FPGE、Independent Study の必修科目に加え PCP 設置の Major Classes の中から最低 8 科目選択してもらいます。

⑥経費

教科書代、合宿費等で 3 万円ほど

⑦先生が担当している講義

PCP 設置科目をご覧ください。

<http://www.econ.keio.ac.jp/en/undergraduate/pcp/curriculum>

8.ゼミ HP・SNS

<http://www.econ.keio.ac.jp/en/undergraduate/pcp>

9.連絡先

研究プロジェクト

1. 研究プロジェクトとは？

経済学部で2005年度に始まった研究プロジェクトは、学生が自らテーマを選び、学部専任教員の指導のもと、1年間で論文や作品を完成させるコースです。テーマは経済学に限りません。社会科学・自然科学・人文科学、どの学術分野を選んでも構いませんし、芸術作品などの創作を行うこともできます。今までに100人以上の学生が履修し、町づくりや現代医療、さらには音楽、映画、建築など幅広いテーマで研究成果を発表してきました。過去の研究成果に関しては、経済学部HPの研究プロジェクトのサイトをご覧ください。

研究プロジェクトは研究プロジェクトa/bと研究プロジェクトCの2つの科目から成り立っています。研究プロジェクトa/bでは、指導教員に論文や作品が完成するまで指導していただきます。ここでの大きな特徴は、徹底した少人数制です。1人の教員がこのプロジェクトで指導できる学生は5人までとなっています。そのため、学術的な問いの立て方から文献の調べ方、論文を書く際の作法まできめ細やかな個別指導を受けることができます。

一方、研究プロジェクトCは、研究プロジェクトを履修した学生全員を対象に、論文の書き方講習会や、各自の研究の報告会などを年6回程度開催します。これらは、研究プロジェクト履修生間の交流の場になると同時に、自分の研究の進捗状況がどのあたりなのかを客観的に把握する機会となります。特に、中間報告会と最終報告会は一般

公開となりますので、専門外の聴衆にも自分の研究内容を正確に伝えることが要求されます。例年、これらの報告会では、履修生やその他の聴衆から活発な意見交換が行われ、知的刺激に満ちた場となっています。

また、最終成果の要旨は全員インターネット上で公開することが義務付けられています。履修生の研究成果を広く知ってもらうことが主な目的ですが、それと同時に、履修生には研究内容に対する責任を意識することが求められます。

2. 履修までの手順

研究プロジェクトを履修するためには、申込みの時点で、何をどう研究するかがある程度明確に決まっていなくてはなりません。履修を検討している学生は、今から自分の関心あるテーマに関連する文献をできるだけ多く読み、関連する授業を履修しておくことをお勧めします。

3. 選考について

(1)指導教員を探す

研究プロジェクトを履修するためには、まず指導していただける教員を探さなくてはなりません。経済学部専任教員の中から、自分のテーマに近い研究をしている教員を探し、指導を依頼してください。指導教員がうまく見つからない、依頼したい教員への連絡の取り方がわからないといった場合は、研究プロジェクトのサイトから「問い合わせ用紙」をダウンロードし、必要事項を記入した後、後述のコーディネーター問い合わせ先までご相談ください。

(2)履修申込み

指導教員が決まったら、今度は「申込用紙」をダウンロードし、記入したうえで学生部に提出してください。履修申込みの受付期間は2回あります。2020年度の募集スケジュールや、申込手続きの詳細については、研究プロジェクトのサイトの「履修申込みについて」に書かれていますのでご覧ください。

(3)履修登録

コーディネーターの先生方と指導教員による選考により履修許可を得て、4月に履修登録を済ませれば、履修のための手続きはすべて完了です。

履修についてのよくある質問は、経済学部HPにある、研究プロジェクトの頁のQ&Aにもまとめてあります。こちらも参照してください。(http://www.econ.keio.ac.jp/undergraduate/research-project/qanda)

4. 構成員

17名

5. 活動紹介

1 研究プロジェクトa/b（教授との相談）

担当教員との週一度の授業です。曜日や時間帯は教員との相談の上で決めることができます。授業としては一週間分の自分の研究成果を報告し、教員から助言をいただきます。あくまで研究は学生主導で行われるため、自己管理能力と自発性が求められます。教員との議論が白熱し、気付かないうちに数時間が経っていたとい

うことも少なくありません。

2 研究プロジェクトC（土3・4限）

受講生全体が集まって行う授業です。原則年に6回程度、土曜に行われます。基本的に研究プロジェクトは一人で研究を行うものですが、ここでは研究の進捗状況や情報を共有することが求められています。論文の書き方講習やプレゼンの仕方などの学術的成果発表の様式を学ぶことが目的となっています。なお、③以降は研究プロジェクトCの具体的な講座について説明します。

3 論文の書き方講習

論文を執筆するにあたって求められるルールや方法を学ぶ講座です。言葉づかいから章立てに渡るまで丁寧に説明していただけます。今年度は、5月に立教大学の河野哲也先生に講演をしていただきました。

4 論文テンプレート講習会

論文を書くにあたって使われる、Microsoft Wordについて学ぶ講座です。論文テンプレート講習会とありますが、実際にはそれに留まらず、論文執筆の際に役立つ機能全般について学べます。今年度は10月に、長田進先生に講演をしていただく予定です。

5 メディアセンターツアー

論文執筆に不可欠な文献探索の方法について、例年5月下旬に三田メディアセンターにて、スタッフの方からご説明いただいています。

6 中間報告会

今年度は10月19日に行われます。最終報告会に次ぐ本格的な報告会です。1人当たりの持ち時間を正確に決め、

その時間内で自分の研究の進捗業況や仮説・論証のプレゼンを行います。この発表は一般公開されており、例年他の受講者の指導教員や、当プロジェクトの受講を検討している学生が参加します。

7 最終報告会

成果報告会とも呼ばれ、論文提出後の2月に行われます。この最終報告会も一般公開されます。中間報告会よりも多くの教授、学生が参加し、一般の方が参加されることもあります。これまで研究した成果を発表する場であり、論文と同等に成績評価の基準となります。発表内容について、活発な議論が展開されます。この会をもって、研究プロジェクトは終了です。

8 合宿

各教員により、合宿の有無が異なります。

9 夏休み

各教員の指導方針によります。夏休み明けに控えた中間報告会に向けて、各自が準備を進めます。

10 授業

研究プロジェクトCへの参加は必須です。また、研究プロジェクトa/bは、各期14コマ分を満たす必要があります。

11 経費

研究に必要な文献の購入費用等が生じる可能性があります。

6. 先生が担当している講義

指導を依頼する教員によります。

7. HP/SNS

<https://www.econ.keio.ac.jp/undergraduate/research-project>

8. 連絡先